

[大学院課程
都市イノベーション学府]

YOKOHAMA
National
University

YNU initiative

[大学院]

YNU initiative [大学院] は、本学の修士課程・博士課程・専門職学位課程における教育目標の達成のため、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）の3つの方針について明確化し、公表するものです。

横浜国立大学の5つの精神 —実践性・先進性・開放性・国際性・多様性— を踏まえ、大学全体としての大学院教育の更なる充実に向けた教育目標を定め、研究科・学府、専攻（学位を授与する大学院教育プログラム）はそれぞれが担うべき教育目標および育成人材像を明確にして体系的な教育を実施します。

目次

はじめに	001
目次	002

YNU initiative [大学院]	003
教育理念・目標（教育／研究） 修了認定・学位授与の方針	
教育課程編成・実施の方針 入学者受入れの方針	

都市イノベーション学府

[博士課程前期] 建築都市文化専攻	513
[博士課程前期] 都市地域社会専攻	535
[博士課程後期] 都市イノベーション専攻	559

都市イノベーション 学府

Graduate School of Urban Innovation

[博士課程前期]

建築都市文化専攻

Department of Architecture and Urban Culture/Master's Program

都市地域社会専攻

Department of Infrastructure and Urban Society/Master's Program

[博士課程後期]

都市イノベーション専攻

Department of Urban Innovation/Doctoral Program

教育 理念

都市イノベーション 学府

Graduate School of
Urban Innovation

建築都市文化専攻 / 博士課程前期

都市イノベーション学府

(Graduate School of Urban Innovation)

都市イノベーション学府では、建築、都市計画、都市基盤等における持続可能な発展と、芸術文化や共生社会の分野における多文化的創造やコンフリクトの根本的解決にむけて、都市-世界に関わる先進的、国際的な研究を「サステナビリティ」と「クリエイティブティ」の観点から総合・集約させ、都市の中に多様なイノベーションを実践的に生み出し、都市-世界の自律的で継続的な発展を目指すことを教育理念とする。

建築都市文化専攻 / 博士課程前期

(Department of Architecture and Urban Culture / Master's Program)

建築、都市計画、芸術文化の領域を研究実践と制作上のフィールドに、都市-世界の諸様相を抱握、革新する先進的なアイデアと技術を冒険的に前進させ、これからの都市-世界の自律的で開放的な躍動とイノベーションを目指す。

学府・専攻の人材養成目的 その他教育研究上の目的

[学則別表第4]

都市イノベーション学府 (Graduate School of Urban Innovation)

都市イノベーション学府博士課程前期は、建築学、都市計画学、都市基盤学がこれまでに達成した科学技術についての知識と、世界各地の都市について、その問題や都市における文化創造についての知識を持ち、具体的な都市地域でその問題や創造性を提案することができ、それらの知識を新たな都市のイノベーションとして、持続的に実践できる高度職業人を養成する。

建築都市文化専攻／博士課程前期 (Department of Architecture and Urban Culture/ Master's Program)

建築都市文化専攻は、日本を代表する都市であり、実験都市とでもいうべき特徴を持つユニークな都市である横浜を教育研究の中心的なフィールドにして、都市をめぐる問題の所在について十分な知識を持ち、スタジオ教育で実践的な能力を養い、都市の将来を担いうる説得力ある空間を提案し、また都市で先進的な芸術活動を持続的に支援する人材を養成する。

卒業修了認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

DP1 都市イノベーション学府建築都市文化専攻 (博士課程前期)が養成する人材

[都市イノベーション学府が養成する人材]

- 人間社会が直面する諸課題の解決にグローバル／ローカルな視点から貢献するイノベティブな人材
- 実践的な能力を身に付け、都市の将来を担いうる説得力ある空間を提案する能力を備えた人材、もしくは、都市で先進的な芸術活動を持続的に支援することのできる人材
- ローカル及びグローバルにわたる広い視野、横断的な課題解決能力、総合力を備えつつ、先端的な課題に創造性をもって対応することのできる創造力と実践力を備えたイノベティブな人材
- 社会課題を多面的に理解し、建築学・土工学・社会科学、国際社会や文化・芸術分野など諸分野との連携も意識できる文理融合型の高度な人材

[建築都市文化専攻(博士課程前期)が養成する人材]

- 都市-世界を開くアイディアの価値や意味を熟知する人材
- 都市-世界をめぐる学術知や技術知の歴史を自覚することのできる人材
- 都市-世界をめぐる問題の現在性を把握できる人材

DP2 都市イノベーション学府建築都市文化専攻 (博士課程前期)の卒業修了認定・学位授与方針

都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期)が修了を認定し、学位を授与するために修得しておくべき学修成果(身に付けるべき資質・能力)の目標を、学府・専攻およびコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)および修士の学位(工学、学術)ごとに定める。

都市イノベーション学府では、建築学・土木工学という都市のハードに関わる分野と人文・社会科学、国際社会や文化・芸術などソフトに関わる分野の双方で、実務に長けた高度専門家の育成を行う。

以下の4つの実践的知を身につけた人材に対して、修士(工学、学術)を授与する。

専門知識・学識

世界の都市・地域をめぐる諸問題について、技術的・社会的・文化的・歴史的分野に関する高度な専門知識。都市のイノベーションというテーマに対して多様なアプローチを実行できる学識

思考力

グローバル社会のなかで柔軟な発想を持ち、自らが主体的に考える思考力。空間、社会基盤、文化基盤などのハードウェアを実践的に設計・構築することのできる能力

コミュニケーション力

諸都市諸地域の学問・文化・芸術・社会活動などソフト面を持続的・実践的に主導できるコミュニケーション力。都市の現実から課題を抽出し、その創造的で有効な解を発見するために、協働して作業を実践できる力

倫理観・責任感

新興国・途上国の都市の問題解決のために実践的かつ創造的に行動できる使命感。多様な問題を包含した都市の現在に、創造的で持続可能な都市の発展を生み出し社会に貢献するマインド

[建築都市文化専攻(学修成果の目標)]

[修士(工学)建築都市文化コース]

- 科学的根拠や理論に基づいて、創造的で豊かな建築や都市環境・まちづくりを構想し、力強く実践することができる能力
- 歴史的な建築や都市の知恵を理解し、災害や環境リスク、社会のニーズの変化などを的確に捉えて、柔軟に建築や都市のデザインやマネジメントに対応できる能力
- 文化や生活者の視点を尊重し、都市の課題解決のために必要な他分野協働に適応できる資質・能力

[修士(学術)建築都市文化コース]

- 芸術文化・都市文化の領域で理論的アイディアを起動させる能力
- 芸術文化・都市文化をめぐる環境変化に理論的に対応できる能力
- 芸術文化・都市文化の領域以外からの問いにも対応できる資質・能力

[修士(工学)建築都市デザインコース(Y-GSA)]

- 地域計画と一体で建築を構想していくための文理にまたがる幅広い興味と知見、地域社会に対する観察力・分析力
- 理論に基づく実践、実践から考察される理論を行き来する柔軟な思考力
- グローバルな視点、歴史的な視点から建築と都市を考察・批評する力、批評を乗り越えていく建築創造の実践力

[修士(学術)横浜都市文化コース(Y-GSC)]

- 芸術文化・都市文化の領域で制作的アイディアを起動させる能力
- 芸術文化・都市文化をめぐる環境変化に制作の場に対応できる能力
- 芸術文化・都市文化の領域以外からの問いにも対応できる資質・能力

DP3 都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期)の修了認定・学位授与基準

[修了認定基準]

都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期)に修業年限2年(又は長期にわたる履修を認められた学生は当該修業期間)以上在学し、学生が所属するコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)が定める授業科目および単位数を修得し、修了に関わる授業科目のGPA(Grade Point Average) 2.0以上を満たし、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文又はポートフォリオの審査及び最終試験に合格した者に修了を認定する。

■在学期間に関しては、優れた業績を上げた者は1年以上在学すれば足りるものとする。

■研究指導に関しては、1年を超えない範囲で学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

■修士(工学)建築都市文化コースが定める授業科目および単位数
合計30単位以上を修得するものとする。

〈共通科目〉

・3科目6単位以上の修得

〈実践教育科目〉

・スタジオ科目・長期インターンシップ科目から4単位以上の修得

〈専門教育科目〉

・講義科目から8単位以上の修得(ただし、自専攻の修士(工学)認定用科目から4単位以上修得することを必須とする)

・演習科目から8単位以上の修得

上記26単位のほか、共通科目、スタジオ科目、インターンシップ科目、専門教育講義科目から4単位以上の修得

■修士(学術)建築都市文化コースが定める授業科目および単位数
合計30単位以上を修得するものとする。

〈共通科目〉

・3科目6単位以上の修得

〈実践教育科目〉

・スタジオ科目・長期インターンシップ科目から4単位以上の修得

〈専門教育科目〉

・講義科目から8単位以上の修得(ただし、自専攻の修士(学術)認定用科目から4単位以上修得することを必須とする)

・演習科目から8単位以上の修得

上記26単位のほか、共通科目、スタジオ科目、インターンシップ科目、専門教育講義科目から4単位以上の修得

■修士(工学)建築都市デザインコース(Y-GSA)が定める授業科目および単位数

〈共通科目〉

・3科目6単位以上の修得

〈実践教育科目〉

・スタジオ科目・長期インターンシップ科目から24単位以上の修得

■修士(学術)横浜都市文化コース(Y-GSC)が定める授業科目および単位数
合計30単位以上を修得するものとする。

〈共通科目〉

・3科目6単位以上の修得

〈実践教育科目〉

・スタジオ科目・長期インターンシップ科目から8単位以上の修得

〈実践教育科目〉

・講義科目から4単位以上の修得(ただし、自専攻の修士(学術)認定用科目から4単位以上修得することを必須とする)

・演習科目から8単位以上の修得

上記26単位のほか、共通科目、スタジオ科目、インターンシップ科目、専門教育講義科目から4単位以上の修得

[学位論文に係る評価基準 (履修案内より)]

建築都市文化コース

- 適切な研究課題が選定されていること。
- 適切な研究方法により、論理的かつ独創的な研究が展開されていること。

[ポートフォリオに係る評価基準]

建築都市デザインコース (Y-GSA)

- 適切な研究課題が選定されていること。
- 適切な研究方法により、論理的かつ独創的な研究および設計思想が展開されていること。

横浜都市文化コース (Y-GSC)

- 適切な研究課題が選定されていること。
- 適切な研究方法により、独創的な活動が展開されていること。
- 自分の活動に対して十分な理論的位置づけがなされていること。

[学位授与基準]

都市イノベーション学府建築都市文化専攻（博士課程前期）を修了した者に対し、修士（工学） / Master of Engineering 又は修士（学術） / Master of Philosophy の学位を授与する。

Policy2

教育課程編成・実施の方針

（カリキュラム・ポリシー）

CP1 都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期)の教育システムとカリキュラム基本構造

[教育課程の編成方針]

都市イノベーション学府建築都市文化専攻（博士課程前期）の教育課程は、共通科目、実践教育科目および専門教育科目により授業科目を開設するとともに、研究指導の計画を策定し、学府・専攻ごとに体系的に編成するものとする。

教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。

各授業科目は選択必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

[修士(工学) 建築都市文化コース]

- 共通科目は、都市に関する高度な文理融合教育を行うため、各領域にまたがる共通科目を設け、2つの専攻に関わる前期課程の選択必修科目になっている。
- 実践教育科目は、専任教員に実務家を交えた複数の教員の指導により現実のフィールドに根ざしたプロジェクトを実践する少人数制教育科目であるスタジオ科目と各領域で実際にインターンシップを行うインターンシップ科目から編成されている。
- 専門教育科目は、専門教育に関する講義科目と専門教育に関する演習科目から編成されている。

[1年次]

- 専門教育科目の演習科目4単位を履修

[2年次]

- 専門教育科目の演習科目4単位を履修

[1~2年次]

- 共通科目、実践教育科目、専門教育科目講義科目を履修

[研究指導の計画方針]

- 修士研究は、1年次および2年次における専門教育科目の演習科目を通して、研究テーマ設定、資料収集、実験・調査の実施と分析（中間発表含む）、結論の導き方と妥当性など、それぞれの段階において責任指導教員・関連指導教員が指導・助言を行う。
- 在学期間中に国内外を対象とした学会発表・会議出席・インターンシップを奨励する。

[修士(学術)建築都市文化コース]

- 共通科目は、都市に関する高度な文理融合教育を行うため、各領域にまたがる共通科目を設け、2つの専攻に関わる前期課程の選択必修科目になっている。
- 実践教育科目は、専任教員に実務家を交えた複数の教員の指導により現実のフィールドに根ざしたプロジェクトを実践する少人数制教育科目であるスタジオ科目と各領域で実際にインターンシップを行うインターンシップ科目から編成されている。
- 専門教育科目は、専門教育に関する講義科目と専門教育に関する演習科目から編成されている。

[1年次]

- 専門教育科目の演習科目4単位を履修

[2年次]

- 専門教育科目の演習科目4単位を履修

[1~2年次]

- 共通科目、実践教育科目、専門教育科目講義科目を履修

[研究指導の計画方針]

- 修士研究は教育理念・教育目的に通底する問題設定を求める。
- 在学期間中に学会発表を奨励する。
- 指導教員の研究指導を基軸としながらも、特別演習や講評会での複数教員の助言も必要に応じて参考にし、研究を向上させることを推奨する。

[修士(工学)建築都市デザインコース(Y-GSA)]

- 共通科目は、都市に関する高度な文理融合教育を行うため、各領域にまたがる共通科目を設け、2つの専攻に関わる前期課程の選択必修科目になっている。
- 実践教育科目は、専任教員に実務家を交えた複数の教員の指導により現実のフィールドに根ざしたプロジェクトを実践する少人数制教育科目であるスタジオ科目と各領域で実際にインターンシップを行うインターンシップ科目から編成されている。

[1~2年次]

- 共通科目、実践教育科目を履修

[研究指導の計画方針]

- 修士研究は、論文に替わるポートフォリオとして提出する。スタジオのプロジェクトを中心に、4つのプロジェクトに通底するテーマを設定し、そのテーマをもとにプロジェクトを再度分析しながら、論理的にまとめていく。
- 在学期間中に国際会議や海外ワークショップへの参加、また国内外での建築事務所におけるインターンシップ、実務研修を強く奨励する。
- 研究テーマに対する指導教員の指導をもとにしながらも、中間講評会やスタジオ合同講評会での複数教員の助言も必要に応じて研究テーマに反映させ、研究を向上させていくことを推奨する。
- 副専攻プログラム（Y-GSA／建築都市デザインコース）の所定の単位を修得することを強く推奨する。

[修士(学術)横浜都市文化コース(Y-GSC)]

- 共通科目は、都市に関する高度な文理融合教育を行うため、各領域にまたがる共通科目を設け、2つの専攻に関わる前期課程の選択必修科目になっている。
- 実践教育科目は、専任教員に実務家を交えた複数の教員の指導により現実のフィールドに根ざしたプロジェクトを実践する少人数制教育科目であるスタジオ科目と各領域で実際にインターンシップを行うインターンシップ科目から編成されている。
- 専門教育科目は、専門教育に関する講義科目と専門教育に関する演習科目から編成されている。
- [1年次] 専門教育科目の演習科目4単位を履修。
- [2年次] 専門教育科目の演習科目4単位を履修。

[1～2年次]

- 共通科目、実践教育科目、専門教育科目講義科目を履修

[研究指導の計画方針]

- 修士研究は教育理念・教育目的に通底する問題設定を求める。
- 在学期間中に学外での発表・活動を奨励する。
- 指導教員の研究指導を基軸としながらも、特別演習や講評会での複数教員の助言も参考にして研究を向上させることを推奨する。

CP2 都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期)の教育課程プログラムと成績評価基準

[教育課程の実施方針]

都市イノベーション学府建築都市文化専攻（博士課程前期）の教育課程は、学府・専攻において、国際通用性ある質保証された大学院博士課程前期教育を実現するとともに、教育課程の編成方針に従い、次の取組を実施するものとする。

- 建築・都市計画・芸術文化の領域の基礎問題を学ぶ。
- 建築・都市計画・芸術文化の領域の先端的問題を学ぶ。
- 都市-世界をめぐる重要で難易度の高い課題に取り組む。
- 「実験都市」横浜を教育研究の中心的なフィールドにして学ぶ。
- 都市-世界をめぐる先鋭的な問題に学外とも連携して取り組む。

[教育方法の特例]

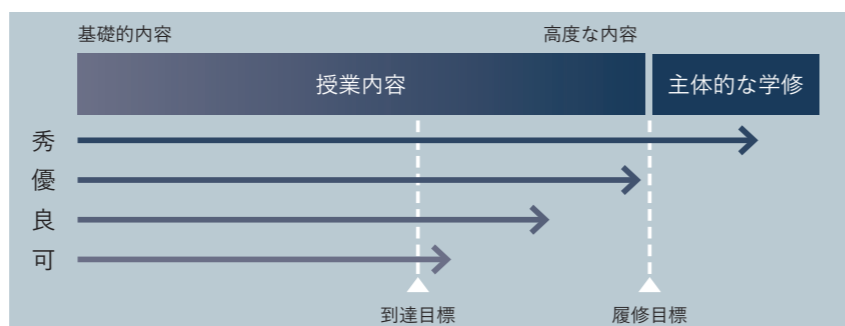
都市イノベーション学府建築都市文化専攻（博士課程前期）の教育課程において、学生が職業を有している等の事情により教育上特別の配慮が必要な場合は、夜間その他特定の時間又は時期に行う授業又は研究指導など、次による教育方法の特例を実施する。

- 指導教員と調整した日程に登校し、必要な研究指導を受けるものとする
- 特例による授業は、夜間又は夏季・冬季休業期間中等に実施する。

[成績評価基準]

都市イノベーション学府建築都市文化専攻（博士課程前期）の成績評価は、「授業設計と成績評価ガイドライン」による全学統一の成績評価基準に基づき、WEBシラバス（Syllabus）に記載した成績評価の方法により総合判定し、成績グレード（評語）を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表し、それぞれの授業科目の成績評価に対してGP（Grade Point）を与えるものとする。ただし、5段階の成績グレード（評語）で表し難い授業科目は「合格・不合格」で表し、GP（Grade Point）を与えないものとする。

評語	成績評価の基準	GP	評価点
秀	履修目標を越えたレベルを達成している	4.5	100-90点
優	履修目標を達成している	4	89-80点
良	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	3	79-70点
可	到達目標を達成している	2	69-60点
不可	到達目標を達成していない	0	59-0点



- 履修目標は、授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標とし、より高度な内容は主体的な学修で身に付けることが必要であり、履修目標を超えると成績評価「秀」となる目標
- 到達目標は、授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標とし、到達目標を達成すると成績評価「可」となる目標であり、さらなる学修を必要とするレベルを示す

CP3 都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期)入学から修了までの学修指導の方針

[学修指導の方針]

都市イノベーション学府建築都市文化専攻（博士課程前期）の学修指導は、学生の多様なニーズや学習支援の効果等を踏まえて適切に実施するとともに、学府・専攻において次の取組を実施するものとする。

[修士(工学)建築都市文化コース]

共通科目、実践教育科目（スタジオ科目・長期インターンシップ科目）、専門教育科目（講義科目と特別演習）の中から積極的に履修を促し、建築・都市・文化に関わる諸領域に関する先端的研究についての知識を有し、実践的な研究とその成果を都市のイノベーションとして成立させ得る能力を養成する。

[1年次]

多様な講義科目の履修を通して専門および関連分野に関する幅広い視野と知識を得るとともに、実践教育科目と特別演習の履修により専門分野における具体的な調査研究手法を身に付ける。その中で修士研究の基礎を構築する。

[2年次]

特別演習により専門分野に関する知識を深化し、修士研究を完成させる。

[研究指導]

指導教員の研究指導を基軸とするが、特別演習や中間発表における関連教員等の指導・助言も参考にして修士研究を遂行する。

[修士(学術)建築都市文化コース]

専門領域での研究能力を高めると同時に、専門外領域の視座から研究能力を拡張することも推奨する。

[1年次]

専門領域の知識を集中的に深めつつ、専門的視座を高める上で必要な専門外領域の授業にも挑戦し、研究能力を拡張する。

[2年次]

専門領域の演習で専門性を深め、また、修士論文を完成させる。

[研究指導]

指導教員の研究指導を基軸とする。特別演習や講評会での複数教員の助言も必要に応じて参考にする。

[修士(工学)建築都市デザインコース(Y-GSA)]

建築の設計には幅広い知識と知見が必要である。実践教育科目（スタジオ科目・長期インターンシップ科目）以外の共通科目や副専攻科目の中から、建築・都市・文化に関わる諸領域に関する研究についての知識を有し、空間設計を裏付ける論理を構築していくことを推奨する。

[1年次]

多様な講義科目の履修を通して専門および関連分野に関する幅広い視野と知識を得るとともに、実践教育科目、共通科目、副専攻科目の履修により専門分野における自身の論点を見出し、スタジオのプロジェクトに関するブックレットを制作し、論理構築していく。

[2年次]

前年度に見出した論理を、スタジオでのプロジェクトでさらに展開し、実証させると同時に、修了のためのポートフォリオを完成させる。

[研究指導]

研究テーマに対する指導教員の指導をもとにしながらも、中間講評会やスタジオ合同講評会での複数教員の助言も必要に応じて研究テーマに反映させ、研究を向上させることを推奨する。

[修士(学術)横浜都市文化コース(Y-GSC)]

専門領域での制作能力を高めると同時に、専門外領域の視座から制作能力を拡張することも推奨する。

[1年次]

専門領域の知識を集中的に深めつつ、専門的視座を高める上で必要な専門外領域の授業にも挑戦し、制作能力を拡張する。

[2年次]

専門領域の演習で専門性を深め、また、修士ポートフォリオを完成させる。

[研究指導]

指導教員の研究指導を基軸とする。特別演習や講評会での複数教員の助言も必要に応じて参考にする。

[長期にわたる課程の履修]

都市イノベーション学府建築都市文化専攻（博士課程前期）の教育課程において、学生が職業を有している等の事情により修業年限2年を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができるものとする。

入学者受入れの方針

(アドミッション・ポリシー)

AP1 都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期)が求める学生像

社会課題を多面的に理解し、建築学・土木学・社会科学、国際社会や文化・芸術分野などの諸分野と連携できる文理融合型の高度な人材の育成を目指す。

[都市イノベーション学府が求める学生像]

- 都市に関わる多様なイノベーションを目指そうとする人
- グローバルな視点と高度な思考力を備えた人
- 本学府の掲げる以下の理念に対して強い関心のある人
 - ・人間と自然に優しく美しい都市空間に係るイノベーション
感性を高める都市の価値づくり
 - ・科学的評価と諸資源のマネジメント手法に係るイノベーション
人々の共感による都市づくり
 - ・歴史的・文化的・社会的な固有性の共生に係るイノベーション
共生と連帯によるグローバルな環境づくり

[建築都市文化専攻(博士課程前期)が求める学生像]

- 持続可能で成熟した豊かな都市・建築空間を創造するための礎となる芸術活動や思想・工学に関心があり、建築・都市に関する高度な専門家となるための学力、必要な知識を持ち、感性と情熱を有する人

[建築都市文化コースが求める学生像]

- 豊かで環境と調和し、安全で快適な建物や都市を構築するのに必要な専門知識を深く身に付けるために、好奇心と行動力を持って自ら挑戦しようとする人
- 未来の私たちの住まう都市を構想する豊かな想像力を持ち、夢を科学的な思考によって現実のものにする実行力、そして未来の社会に対して責任をもつ強い精神力を持つ人
- 芸術文化・都市文化に関する強い知的好奇心と探求心を持ち、建築デザイン、建築理論、都市環境などの分野と連携しながら、芸術文化・都市文化の進化・更新を目指す人

[建築都市デザインコース(Y-GSA)が求める学生像]

- 建築デザインの分野に精通するのみならず、建築理論、建築・都市史、都市環境、構造工学、都市文化、芸術文化などの分野と連携しながら、次世代の新しい環境と建築を創造していく建築家を目指す人

[横浜都市文化コース(Y-GSC)が求める学生像]

- 映像芸術、音楽芸術、現代アート、文芸メディアなどの芸術文化・都市文化に精通するのみならず、建築都市デザイン、都市環境などの分野と連携しながら、次世代の都市文化・芸術環境を創造しようと志す人

AP2 都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期) が入学者に求める知識や能力・水準

都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期)が入学者に求める知識や能力・水準は、学府・専攻およびコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)ごとに定める。

[建築都市文化コース]

- 学科試験で選択する分野に関する基礎知識と応用力を有すること
- 修士研究に向けた発展性のある研究構想を十分に示せること

[建築都市デザインコース(Y-GSA)]

- 学科試験で選択する分野に関する基礎知識と応用力を要すると同時に、即日設計においては求められる要件に関して、豊かな創造力で応答する設計能力を有すること
- ポートフォリオ制作に向けて、建築に対する自身の論点・思想を十分に示せること

[横浜都市文化コース(Y-GSC)]

- 学科試験で選択する分野に関する基礎知識と応用力を有すること
- 修士制作に向けた発展性のある制作構想を十分に示せること

AP3 都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期) の入学者選抜の基本方針

都市イノベーション学府建築都市文化専攻(博士課程前期)の入学者選抜は、入学者に求める関心、意欲、また必要な知識や能力・水準を確認するため、学府・専攻およびコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)ごとに学力検査や面接試験などを活用して多面的・総合的な入学者選抜を実施する。

[入学者選抜の実施方法]

- 外国語の基礎的な学力を調べるために外国語試験を課す。
- 専門分野に関する専門知識を調べるため、学科試験を課す。コースによっては即日設計・ポートフォリオの提出を課す。
- 学ぶ意欲・態度・専門分野に関する知識を調べるため面接試験を課す。

[建築都市文化コース]

- 一般入試、私費外国人留学生特別入試は、特別選抜と筆記試験選抜のいずれかにより行う。
- 特別選抜では、受験資格認定者に対して、口述試験、面接および書類審査により選抜を行う。
- 筆記試験選抜では、外国語、学科試験(口述試験または面接を含む)により選抜を行う。

[建築都市デザインコース(Y-GSA)]

- 一般入試、私費外国人留学生特別入試は、筆記試験選抜により行う。
- 筆記試験選抜では、外国語、学科試験、即日設計、ポートフォリオおよび面接により選抜を行う。

[横浜都市文化コース(Y-GSC)]

- 一般入試は、筆記試験選抜により行う。
- 筆記試験選抜では、外国語、学科試験Ⅰ、学科試験Ⅱ(口述試験)により選抜を行う。

都市イノベーション 学府

Graduate School of
Urban Innovation

都市地域社会専攻／ 博士課程前期

都市イノベーション学府

(Graduate School of Urban Innovation)

都市イノベーション学府では、建築、都市計画、都市基盤等における持続可能な発展と、芸術文化や共生社会の分野における多文化的創造やコンフリクトの根本的解決にむけて、都市-世界に関わる先進的、国際的な研究を「サステナビリティ」と「クリエイティブティ」の観点から総合・集約させ、都市の中に多様なイノベーションを実践的に生み出し、都市-世界の自律的で継続的な発展を目指すことを教育理念とする。

都市地域社会専攻／博士課程前期

(Department of Infrastructure and Urban Society/
Master's Program)

都市地域社会専攻（博士課程前期）の教育理念は、都市基盤、共生社会分野の創造的、実践な研究において、都市、文化、自然、世界の諸様相を把握、革新する先進的なアイデアと技術を冒険的に前進させ、グローバル都市の自律的で継続的な発展を目指すことにある。

学府・専攻の人材養成目的 その他教育研究上の目的

[学則別表第4]

都市イノベーション学府

(Graduate School of Urban Innovation)

都市イノベーション学府博士課程前期は、建築学、都市計画学、都市基盤学がこれまでに達成した科学技術についての知識と、世界各地の都市について、その問題や都市における文化創造についての知識を持ち、具体的な都市地域でその問題や創造性を提案することができ、それらの知識を新たな都市のイノベーションとして、持続的に実践できる高度職業人を養成する。

都市地域社会専攻／博士課程前期

(Department of Infrastructure and Urban Society/
Master's Program)

都市地域社会専攻は、日本及び振興国・途上国等の都市問題解決や地域社会発展に、中央政府、地方行政、国際協力組織、民間企業、NGOといった組織で、指導的立場から貢献できる人材を養成する。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

DP1 都市イノベーション学府都市地域社会専攻 (博士課程前期)が養成する人材

[都市イノベーション学府が養成する人材]

- 人間社会が直面する諸課題の解決にグローバル／ローカルな視点から貢献するイノベティブな人材
- 実践的な能力を身に付け、都市の将来を担いうる説得力ある空間を提案する能力を備えた人材、もしくは、都市で先進的な芸術活動を持続的に支援することのできる人材
- ローカル及びグローバルにわたる広い視野、横断的な課題解決能力、総合力を備えつつ、先端的な課題に創造性をもって対応することのできる創造力と実践力を備えたイノベティブな人材
- 社会課題を多面的に理解し、建築学・土工学・社会科学、国際社会や文化・芸術分野など諸分野との連携も意識できる文理融合型の高度な人材

[都市地域社会専攻 (博士課程前期) が養成する人材]

- 土工学分野とグローバル・スタディーズ分野の二教育研究分野により、世界的、国際的な視点からの都市問題解決や地域社会の発展のための考え方を身につけられる人材
- 日本及び振興国、途上国等の都市や地域社会の抱えている諸問題を、都市基盤学と人文社会科学の知見を駆使して理解できる人材
- 日本及び振興国、途上国等の都市問題の解決や地域社会の発展に貢献できるグローバルかつローカルな視点と実践力を備えた人材

DP2 都市イノベーション学府都市地域社会専攻 (博士課程前期)の修了認定・学位授与方針

都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)が修了を認定し、学位を授与するために修得しておくべき学修成果(身に付けるべき資質・能力)の目標を、学府・専攻およびコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)および修士の学位(工学、学術)ごとに定める。都市イノベーション学府では、建築学、土工学という都市のハードに関わる分野と人文科学や社会科学、国際社会や文化・芸術などソフトに関わる分野の双方で、実務に長けた高度専門家の育成を行う。

以下の4つの実践的知を身につけた人材に対して、修士(工学、学術)を授与する。

専門知識・学識

世界の都市・地域をめぐる諸問題について、技術的・社会的・文化的・歴史的分野に関する高度な専門知識。都市のイノベーションというテーマに対して多様なアプローチを実行できる学識

思考力

グローバル社会のなかで柔軟な発想を持ち、自らが主体的に考える思考力。空間、社会基盤、文化基盤などのハードウェアを実践的に設計・構築することのできる能力

コミュニケーション力

諸都市諸地域の学問・文化・芸術・社会活動などソフト面を持続的・実践的に主導できるコミュニケーション力。都市の現実から課題を抽出し、その創造的で有効な解を発見するために、協働して作業を実践できる力

倫理観・責任感

新興国・途上国の都市の問題解決のために実践的かつ創造的に行動できる使命感。多様な問題を包摂した都市の現在に、創造的で持続可能な都市の発展を生み出し社会に貢献するマインド

[都市地域社会専攻 (学修成果の目標)]

[修士(工学)都市地域社会コース]

- 土木技術が社会や自然に対して極めて大きな影響を及ぼすことへの理解力を深め、技術者としての責任を自覚するとともに、地球的観点に立って自然環境と調和のとれた共生を実践できる能力
- 構造工学系、水工学系、地盤工学系、土木計画学系、土木材料学系の応用学理を理解できる能力
- 土木技術者として所属する国内外の各組織において、自己および相手の取るべき行動を的確に判断し、他者と協働するとともにリーダーシップを実践的かつ応用的にとれる資質

[修士(学術)都市地域社会コース]

- 人文社会科学諸分野の様々な知見を、理論のみならず実践的に発展させ、応用することができる能力
- 地域社会の発展を多角的に分析し、多様性や流動性によって特徴づけられる都市問題の解決に実践的に対応できる能力
- 諸地域の文化や社会活動など、ソフト面を持続的かつ実践的に主導し、多様な人々のニーズに寄り添い、多様な問題を包含した都市の現在に適應できる資質と能力

[修士(工学)国際基盤学コース(IGSI)]

- 主に新興国や途上国の都市等における諸問題の解決のために土木工学分野で活躍できる能力
- 土木技術が社会や自然に対して極めて大きな影響を及ぼすことへの理解力を深め、技術者としての責任を自覚するとともに、地球的観点に立って自然環境と調和のとれた共生を実践できる能力
- 構造工学系、水工学系、地盤工学系、土木計画学系、土木材料学系の応用学理を理解できる能力
- 土木技術者として所属する国内外の各組織において、自己および相手の取るべき行動を的確に判断し、他者と協働するとともにリーダーシップを実践的かつ応用的にとれる資質

[修士(工学、学術)インフラストラクチャー管理学コース(IMP)]

- インフラストラクチャーの企画、立案から建設、実施に至るあらゆる段階における住民の福祉と環境の保全に配慮した管理運営のあり方を実践できる能力
- 自然科学、社会科学、人文科学などの分野の応用学理をインフラストラクチャーに携わる実務者、技術者として理解できる能力
- 実務者、技術者として所属する国内外の各組織において、自己および相手の取るべき行動を的確に判断し、他者と協働するとともにリーダーシップを実践的かつ応用的にとれる資質

DP3 都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)の修了認定・学位授与基準

[修了認定基準]

都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)に修業年限2年(又は長期にわたる履修を認められた学生は当該修業期間)以上在学し、学生が所属するコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)が定める授業科目および単位数を修得し、修了に関わる授業科目のGPA(Grade Point Average) 2.0以上を満たし、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文および最終試験に合格した者に修了を認定する。

■在学期間に関しては、優れた業績を上げた者は1年以上在学すれば足りるものとする。

■研究指導に関しては、1年を超えない範囲で学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

■**修士(工学)都市地域社会コース**が定める授業科目および単位数合計30単位以上を修得するものとする。

〈共通科目〉

・3科目6単位以上の修得

〈実践教育科目〉

・スタジオ科目・長期インターンシップ科目から4単位以上の修得

〈専門教育科目〉

・講義科目から8単位以上の修得(ただし、自専攻の修士(工学)認定用科目から4単位以上修得することを必須とする)

・演習科目から8単位以上の修得

上記26単位のほか、共通科目、スタジオ科目、インターンシップ科目、専門教育講義科目、Specialized Coursesから4単位以上の修得

■**修士(学術)都市地域社会コース**が定める授業科目および単位数合計30単位以上を修得するものとする。

〈共通科目〉

・3科目6単位以上の修得

〈実践教育科目〉

・スタジオ科目・長期インターンシップ科目から4単位以上の修得

〈専門教育科目〉

・講義科目から8単位以上の修得(ただし、自専攻の修士(学術)認定用科目から4単位以上修得することを必須とする)

・演習科目から8単位以上の修得

上記26単位のほか、共通科目、スタジオ科目、インターンシップ科目、専門教育講義科目、Specialized Coursesから4単位以上の修得

■**修士(工学)国際基盤学コース(IGSI)**が定める授業科目および単位数合計30単位以上を修得するものとする。

〈共通科目〉

・3科目6単位以上の修得

〈実践教育科目〉

・スタジオ科目・長期インターンシップ科目から8単位以上の修得

〈専門教育科目〉

・講義科目から8単位以上の修得(ただし、自専攻の修士(工学)認定用科目から4単位以上修得することを必須とする)

・演習科目から8単位以上の修得

■**修士(工学、学術)インフラストラクチャー管理学コース(IMP)**が定める授業科目および単位数

合計30単位以上を修得するものとする。

・Specialized Coursesから18単位の修得

・Practicum and Internship Programから4単位の修得

・Field Tripsから2単位の修得

・Seminarsから2単位の修得

・Research and Guidance I・IIから4単位の修得

上記のほか、Preparatory Training Coursesの履修を必修とする。

■ダブルディグリープログラム

大連理工大学院建設工学部・建築芸術学院、上海交通大学大学院、交通運輸大学、ダナン大学、ダナン工科大学、アスンシオン国立大学農学研究科、アスンシオン国立大学社会科学関連大学院との協定内容を踏まえつつ、専攻のカリキュラム・ポリシーをもとに運用する。

[学位論文に係る評価基準]

都市地域社会コース

- 適切な研究課題が選定されていること。
- 適切な研究方法により、論理的かつ独創的な研究が展開されていること。

国際基盤学コース (IGSI)

- 適切な研究課題が選定されていること。
- 適切な研究方法により、論理的かつ独創的な研究が展開されていること。

インフラストラクチャー管理学コース (IMP)

- 適切な研究課題が選定されていること。
- 適切な研究方法により、論理的かつ独創的な研究が展開されていること。

[学位授与基準]

都市イノベーション学府都市地域専攻（博士課程前期）を修了した者に対し、修士/Master of Engineering又は修士（学術）/Master of Philosophyの学位を授与する。

教育課程編成・実施の方針

（カリキュラム・ポリシー）

CP1 都市イノベーション学府都市地域社会専攻 （博士課程前期）の教育システムとカリキュラム基本構造

[教育課程の編成方針]

都市イノベーション学府都市地域社会専攻（博士課程前期）の教育課程は、共通科目、実践教育科目および専門教育科目により、インフラストラクチャー管理学コース（IMP）の教育課程は、Specialized Courses、Practicum and Internship Program、Field Trips、Seminars、Research and Guidance、Preparatory Training Coursesにより授業科目を開設するとともに、研究指導の計画を策定し、学府・専攻およびコース（修士の学位を授与する教育課程プログラム）ごとに体系的に編成するものとする。

教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。

各授業科目は、選択必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

[修士(工学)都市地域社会コース]

- 共通科目は、都市に関する高度な文理融合教育を行うため、各領域にまたがる共通科目を設け、2つの専攻に関わる前期課程の選択必修科目になっている。
- 実践教育科目は、専任教員に実務家を交えた複数の教員の指導により現実のフィールドに根ざしたプロジェクトを実践する少人数制教育科目であるスタジオ科目と各領域で実際にインターンシップを行うインターンシップ科目から編成されている。
- 専門教育科目は、専門教育に関する講義科目と専門教育に関する演習科目から編成されている。
- 修士研究は、都市問題解決や地域社会の発展のために、都市基盤学を中心に社会科学や歴史学の知見をも生かしつつ、持続可能性と創造性の双方を具えた研究を奨励する。
- 在学期間中に国際会議出席や海外インターンシップを強く奨励する。
- 在学期間中に査読付きジャーナル論文への投稿を強く奨励する。

[1年次]

- 専門教育科目の演習科目4単位を履修する。
- 修士論文に関する研究テーマを選定して個別の研究を行い、1年次終了前に進捗状況を発表して一回目の中間審査を受ける。

[2年次]

- 専門教育科目の演習科目4単位を履修する。
- 修士論文に関する個別の研究を進め、2年次の約半年経過時に進捗状況を発表して二回目の中間審査を受ける。
- 修士論文に関する研究テーマを選定して個別の研究を行い、修士論文として成果をまとめて発表し、最終審査を受ける。

[1～2年次]

- 共通科目、実践教育科目、専門教育科目講義科目を履修する。

[修士(学術)都市地域社会コース]

- 共通科目は、都市に関する高度な文理融合教育を行うため、各領域にまたがる共通科目を設け、2つの専攻に関わる前期課程の選択必修科目になっている。
- 実践教育科目は、専任教員に実務家を交えた複数の教員の指導により現実のフィールドに根ざしたプロジェクトを実践する少人数制教育科目であるスタジオ科目と各領域で実際にインターンシップを行うインターンシップ科目から編成されている。
- 専門教育科目は、専門教育に関する講義科目と専門教育に関する演習科目から編成されている。

[1年次]

専門教育科目の演習科目4単位を履修

[2年次]

専門教育科目の演習科目4単位を履修

[1～2年次]

共通科目、実践教育科目、専門教育科目講義科目を履修

[研究指導の計画方針]

- 修士研究は、都市問題解決や地域社会の発展に寄与し、人文社会科学諸分野の知見をもとに持続可能性と創造性の双方を具えた研究を奨励する。
- 在学期間中に国際会議出席・発表やインターンシップを強く奨励する。

[修士(工学)国際基盤学コース(IGSI)]

- 共通科目は、都市に関する高度な文理融合教育を行うため、各領域にまたがる共通科目を設け、2つの専攻に関わる前期課程の選択必修科目になっている。
- 実践教育科目は、専任教員に実務家を交えた複数の教員の指導により、現実のフィールドに根ざしたプロジェクトを実践する少人数制教育科目であるスタジオ科目と各領域で実際にインターンシップを行うインターンシップ科目から編成されている。
- 専門教育科目は、専門教育に関する講義科目と専門教育に関する演習科目から編成されている。
- 修士研究は、主に新興国や途上国の都市等における諸問題についての実践的知識を涵養する研究を奨励する。
- 在学期間中に国際会議出席や海外インターンシップを強く奨励する。
- 在学期間中に査読付きジャーナル論文への投稿を強く奨励する。

[1年次]

- 専門教育科目の演習科目4単位を履修する。
- 修士論文に関する研究テーマを選定して個別の研究を行い、1年次終了前に進捗状況を発表して一回目の中間審査を受ける。

[2年次]

- 専門教育科目の演習科目4単位を履修する。
- 修士論文に関する個別の研究を進め、2年次の約半年経過時に進捗状況を発表して二回目の中間審査を受ける。
- 修士論文に関する研究テーマを選定して個別の研究を行い、修士論文として成果をまとめて発表し、最終審査を受ける。

[1～2年次]

- 共通科目、実践教育科目、専門教育科目講義科目を履修する。

[修士(工学、学術) インフラストラクチャー管理学コース(IMP)]

■主に途上国からの実務家に対してインフラストラクチャーに関する実践的知識の養成を図るために、Specialized Courses, Practicum and Internship Program, Field Trips, Seminars, Research and Guidanceの科目を設け、さらに予備教育としてPreparatory Training Coursesの履修を必修とする。

- Specialized Coursesでは、専門教育に関する講義を行う。
- Practicum and Internship Programでは、外部機関実施の実習・視察プログラムへの参加または職場研修を行う。
- Field Tripsでは、国内の社会基盤施設の視察や調査を行う。
- Seminarsでは、外部講師または学内教員によるセミナーを行う。
- Research and Guidanceでは、専門教育に関する演習を行う。
- Preparatory Training Coursesでは、予備教育に関する講義を行う。

[1年次]

- 予備教育に関するPreparatory Training Coursesを履修する。
- Practicum and Internship Program, Field Trips, Seminarsの実践的科目を履修する。

[2年次]

- 修士論文に関する個別の研究を進め、2年次の約半年経過時に進捗状況を発表して中間審査を受ける。
- 修士論文に関する研究テーマを選定して個別の研究を行い、修士論文として成果をまとめて発表し、最終審査を受ける。

[1~2年次]

- Specialized Courses, Practicum and Internship Program, Field Trips, Seminars, Research and Guidance, Preparatory Training Coursesを履修する。

CP2 都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)の教育課程プログラムと成績評価基準

[教育課程の実施方針]

都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)の教育課程は、学府・専攻およびコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)において、国際通用性ある質保証された大学院博士課程前期教育を実現するとともに、教育課程の編成方針に従い、次の取組を実施するものとする。

- 土木工学分野とグローバル・スタディーズ分野の2教育研究分野により、世界的、国際的な視点からの都市問題解決や、地域社会発展のための考え方を学ぶ。
- 社会基盤工学の方法や、地域社会の文化や歴史に関する知識を学ぶ。
- 創造的かつ持続可能な社会ヴィジョンを意識した課題に対し、座学のみならずフィールドにおいても実践的に取り組む。

[教育方法の特例]

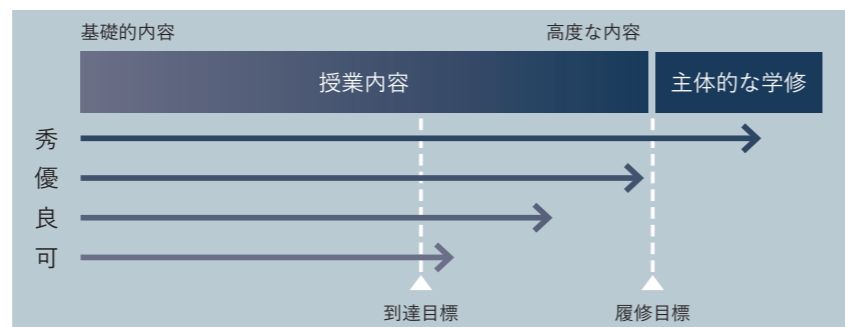
都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)の教育課程において、学生が職業を有している等の事情により教育上特別の配慮が必要な場合は、夜間その他特定の時間又は時期に行う授業又は研究指導など、次による教育方法の特例を実施する。

- 演習及び課題研究等について指定した日に登校して、必要な研究指導を受けるものとする。
- 特例による授業は、長期履修制度や集中講義等を活用し、指導教員と相談しつつ、計画的な履修を進める。

[成績評価基準]

都市イノベーション学府都市地域社会専攻（博士課程前期）の成績評価は、「授業設計と成績評価ガイドライン」による全学統一の成績評価基準に基づき、WEBシラバス（Syllabus）に記載した成績評価の方法により総合判定し、成績グレード（評語）を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表し、それぞれの授業科目の成績評価に対してGP（Grade Point）を与えるものとする。ただし、5段階の成績グレード（評語）で表し難い授業科目は「合格・不合格」で表し、GP（Grade Point）を与えないものとする。

評語	成績評価の基準	GP	評価点
秀	履修目標を越えたレベルを達成している	4.5	100-90点
優	履修目標を達成している	4	89-80点
良	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	3	79-70点
可	到達目標を達成している	2	69-60点
不可	到達目標を達成していない	0	59-0点



- 履修目標は、授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標とし、より高度な内容は主体的な学修で身に付けることが必要であり、履修目標を超えると成績評価「秀」となる目標
- 到達目標は、授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標とし、到達目標を達成すると成績評価「可」となる目標であり、さらなる学修を必要とするレベルを示す

**CP3 都市イノベーション学府都市地域社会専攻
（博士課程前期）入学から修了までの学修指導の方針**

[学修指導の方針]

都市イノベーション学府都市地域社会専攻（博士課程前期）の学修指導は、学生の多様なニーズや学習支援の効果等を踏まえて適切に実施するとともに、学府・専攻およびコース（修士の学位を授与する教育課程プログラム）において次の取組を実施するものとする。

[修士(工学)都市地域社会コース]

土木工学分野とグローバル・スタディーズ分野の2教育研究分野により、世界的、国際的な視点からの都市問題解決や、地域社会発展のための考え方をみにつけるために、次の取組を行う。

[1～2年次]

共通科目、スタジオ科目／長期インターンシップ科目、講義科目、演習を履修し、専門性を高めてゆく。

- 共通科目、スタジオ科目／長期インターンシップ科目、講義科目、演習を履修し、専門性を高めてゆく。
- 演習および修士論文のテーマに関連した研究活動、論文執筆を通じ、構想、設計、実践を通じた学びの評価と総括をおこなう。
- 各学期の成績に基づき、指導教員から履修指導を行う。
- 適切な研究課題の選択、研究方法により、論理的かつ独創的な研究を展開する。

[修士(学術)都市地域社会コース]

都市社会が抱える諸課題の解決や地域社会の発展のための人文社会諸分野の知識と視座を身に付けるために、次の取組を行う。

[1年次]

共通科目、実践教育科目、専門教育科目の履修を通して、専門領域の知識を深化させるとともに、関連する専門領域を学び研究に必要な視座を広げる。

[2年次]

演習科目によって専門性を深めるとともに、修士論文の執筆を通じて、構想、設計、実践を通じた学びの評価と総括を行う。

[研究指導]

指導教員の研究指導のもと、適切な研究課題や研究方法を学び、論理的かつ独創的な研究を展開する。

[修士(工学)国際基盤学コース(IGSI)]

主に新興国・途上国の都市等における諸課題の解決のために土木工学分野で活躍できる人材を養成するために、スタジオ教育を重視した実践的な教育を行う。本コースではすべての講義とスタジオ教育、修士論文指導を英語で行う。

[1年次]

- 共通科目、スタジオ科目／長期インターンシップ科目、講義科目、演習を履修し、専門性を高めてゆく。
- 演習および修士論文のテーマに関連した研究活動、論文執筆を通じ、構想、設計、実践を通じた学びの評価と総括をおこなう。
- 各学期の成績に基づき、指導教員から履修指導を行う。
- 適切な研究課題の選択、研究方法により、論理的かつ独創的な研究を展開する。

[修士(工学、学術)インフラストラクチャー管理学コース(IMP)]

主に途上国からの実務家に対してインフラストラクチャーに関する実践的知識の養成を図るために、次の取組を行う。

[1年次]

- 予備教育に関する Preparatory Training Courses, 専門教育に関する Specialized Courses を履修し、専門性を高めてゆく。
- Field Trips, Seminars を履修するとともに、各自の専門分野に関係するインターンシッププログラムに従事し、実践性を高めていく。
- 修士論文のテーマに関連した研究活動、論文執筆を通じ、構想、設計、実践を通じた学びの評価と総括をおこなう。
- 各学期の成績に基づき、指導教員から履修指導を行う。
- 適切な研究課題の選択、研究方法により、論理的かつ独創的な研究を展開する。

[長期にわたる課程の履修]

都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)の教育課程において、学生が職業を有している等の事情により修業年限2年を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができるものとする。

入学者受入れの方針

(アドミッション・ポリシー)

AP1 都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)が求める学生像

社会課題を多面的に理解し、建築学・土木工学・社会科学、国際社会や文化・芸術分野などの諸分野と連携できる文理融合型の高度な人材の育成を目指す。

[都市イノベーション学府が求める学生像]

- 都市に関わる多様なイノベーションを目指そうとする人
- グローバルな視点と高度な思考力を備えた人
- 本学府の掲げる以下の理念に対して強い関心のある人
 - ・人間と自然に優しく美しい都市空間に係るイノベーション
感性を高める都市の価値づくり
 - ・科学的評価と諸資源のマネジメント手法に係るイノベーション
人々の共感による都市づくり
 - ・歴史的・文化的・社会的な固有性の共生に係るイノベーション
共生と連帯によるグローバルな環境づくり

[都市地域社会専攻(博士課程前期)が求める学生像]

- 国内外における地域の特性を社会、文化、歴史を含めて深く理解する学力・必要な知識を有し、安全、安心な都市および国土の創造や再生、異なる地域の相互理解や交流に意欲を有する人

[都市地域社会コースが求める学生像]

- 土木工学に関する高度な知識と応用力を修得すると同時に、自然科学から人文科学や社会科学を含む幅広い学識を身に付け、俯瞰的視野にたってそれらの知を融合し再構成することで、防災や環境に配慮した利便性が高く魅力溢れる都市や国土の創造とマネジメントに携わろうとする人
- 人文科学や社会科学の知見を生かした複眼的視点から、多様性を真に存続させ共存させることのできる新たな公共性を理論的、実践的に探りつつ、具体的な地域社会環境の形成に貢献しようとする人

[国際基盤学コース(IGSI)が求める学生像]

- 開発途上国を主とした国々の研究機関や都市基盤整備を担う組織や企業、国際機関などで活躍できる国際的な視野に立った高度な土木工学を身に付けたいと希望する人

[インフラストラクチャー管理学コース(IMP)が求める学生像]

- 発展途上国のインフラ整備政策の計画と実施に携わる政府組織や研究機関、企業の関係者で、自国の国民の福祉と一致した意思決定を行うために、インフラストラクチャーの開発と管理に関連する自然科学、社会科学、人文科学などの分野の知識と経験を身に付けたいと希望する人
- 母国または別の途上国で学士号または同等の学位を取得した後、インフラストラクチャー関連の実務を少なくとも3年間経験しているなど世界銀行の奨学金プログラムが求める要件を満足する人

AP2 都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期) が入学者に求める知識や能力・水準

都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)が入学者に求める知識や能力・水準は、学府・専攻およびコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)ごとに定める。

[修士(工学)都市地域社会コース]

■理工系の大学学部教育までの幅広い基礎的な知識や技能を前提とした、英語・数学・土木工学に関わる専門科目、特に土木工学に関わる専門科目については、構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学に関する専門分野の基礎的知識と論理的思考力を求める。

[修士(学術)都市地域社会コース]

- 「国際的な広がり＝グローバル」と「身近な地域＝ローカル」の双方に眼差しを向けつつ、各地域の特性を深く分析、理解し、ソフト面での安心、安全な環境の実現や、地域間相互交流を図ることに対する意欲を求める。
- これまでにない新たな「グローバル」の価値観を築き、広いフィールドで活躍することに対する意欲を求める。
- さまざまな学問領域にわたる幅広い学識を身に付け、既存の学問では失われかけていた「総合知」的な視点からそれらを融合し再構成することによって、多様な主体性の関わる都市や地域の創造やマネジメントに携わろうとする意欲を求める。

[修士(工学)国際基盤学(IGSI)コース]

■理工系の大学学部教育までの幅広い基礎的な知識や技能を前提とした、英語・数学・土木工学に関わる専門科目、特に土木工学に関わる専門科目については、構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学に関する専門分野の基礎的知識と論理的思考力を求める。

[修士(工学、学術)インフラストラクチャー管理学コース(IMP)]

■大学学部教育までの幅広い基礎的な知識や技能を前提とした、英語、工学、経済、経営、法律などのうち関連分野の基礎的知識および論理的思考力を求める。

[ダブルディグリープログラム]

■横浜国立大学大学院とのダブル・ディグリーに関する合意内容を踏まえつつ、上述の修士(学術)都市地域社会コース・修士(工学)国際基盤学(IGSI)コースと同じ専門分野の基礎的知識・論理的思考力・意欲を求める。

AP3 都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期) の入学選抜の基本方針

都市イノベーション学府都市地域社会専攻(博士課程前期)の入学選抜は、入学者に求める関心、意欲、また必要な知識や能力・水準を確認するため、学府・専攻およびコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)ごとに学力検査や面接試験などを活用して多面的・総合的な入学選抜を実施する。

[入学選抜の実施方法]

- 入学選抜は一般入試、私費外国人留学生特別入試の2つの区分を用意し、それぞれ特別選抜と筆記試験選抜のいずれかにより行う。

[都市地域社会コース]

- 外国語(英語等)能力を調べるため、外部の外国語試験(TOEIC、TOEFL、IELTS等)を課し、基礎的知識や技能を確認する。
- 研究分野に関する総合的な学力および専門知識を調べるため、都市基盤系分野においては数学1題かつ複数領域から4題、地域社会系分野においては複数領域から1題を選択する学科試験を課す。
- 研究に向けた発展性のある柔軟な専門性と研究構想を有していることを調べるため口述試験を課す。

[国際基盤学コース(IGSI)]

- 外国語(英語)の能力を調べるため、外部英語試験(TOEIC、TOEFL、IELTS)を課し、基礎的知識や技能を確認する。
- 研究分野に関する総合的な学力および専門知識を調べるため、数学1題かつ複数領域から4題を選択する学科試験を課す。
- 研究に向けた発展性のある柔軟な専門性と研究構想を有していることを調べるため口述試験を課す。

[インフラストラクチャー管理学コース(IMP)]

- 渡日前の特別入試により選抜を行う。
- 特別入試は、受験資格認定者に対して学士課程での学業成績を示す公式の成績証明書、英語能力に関する証明書、研究計画書の審査と、必要に応じて実施するインターネット面接による選抜を行う。

都市イノベーション 学府

Graduate School of
Urban Innovation

都市イノベーション専攻／ 博士課程後期

都市イノベーション学府

(Graduate School of Urban Innovation)

都市イノベーション学府では、建築、都市計画、都市基盤等における持続可能な発展と、芸術文化や共生社会の分野における多文化的創造やコンフリクトの根本的解決にむけて、都市-世界に関わる先進的、国際的な研究を「サステナビリティ」と「クリエイティブティ」の観点から総合・集約させ、都市の中に多様なイノベーションを実践的に生み出し、都市-世界の自律的で継続的な発展を目指すことを教育理念とする。

都市イノベーション専攻／博士課程後期

((Department of Urban Innovation/Doctoral Program)

都市イノベーション専攻（博士課程後期）の教育理念は、建築、都市計画、都市基盤、共生社会分野の創造的、実践的な研究において、都市、文化、自然、世界の諸様相を抱握、革新する先進的なアイデアと技術を冒険的に前進させ、グローバル都市の自律的で継続的な発展を目指すことにある。

学府・専攻の人材養成目的

その他教育研究上の目的

[学則別表第4]

都市イノベーション学府

都市イノベーション専攻／博士課程後期

(Graduate School of Urban Innovation,
Department of Urban Innovation/Doctoral Program)

建築学、都市計画学、都市基盤学がこれまでに達成した科学技術についての知識と、世界各地の都市について、その問題や都市における文化創造についての知識を併せ持ち、具体的な都市地域でその問題や創造性を実践的に再構築することができ、それらの知識を新たな都市のイノベーションとして、組織できるリーダーになる高度職業人を養成する。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

DP1 都市イノベーション学府都市イノベーション専攻 (博士課程後期)が養成する人材

[都市イノベーション学府が養成する人材]

- 人間社会が直面する諸課題の解決にグローバル／ローカルな視点から貢献するイノベティブな人材
- 実践的な能力を身に付け、都市の将来を担いうる説得力ある空間を提案する能力を備えた人材、もしくは、都市で先進的な芸術活動を持続的に支援することのできる人材
- ローカル及びグローバルにわたる広い視野、横断的な課題解決能力、総合力を備えつつ、先端的な課題に創造性をもって対応することのできる創造力と実践力を備えたイノベティブな人材
- 社会課題を多面的に理解し、建築学・土木学・社会科学、国際社会や文化・芸術分野など諸分野との連携も意識できる文理融合型の高度な人材

[都市イノベーション専攻(博士課程後期)が養成する人材]

- 世界の多様な都市・地域をめぐる諸問題について、それぞれに必要なとされる技術的・社会的・文化的・歴史的な専門知識を備えた人材
- 諸都市・諸地域の将来を担ううる説得力のある構想や空間・社会基盤や文化基盤を実践的に提案・設計・構築することのできる人材
- 諸都市・諸地域の学問・文化・芸術・社会活動を持続的・実践的に主導・支援することのできる人材

DP2 都市イノベーション学府都市イノベーション専攻 (博士課程後期)の修了認定・学位授与方針

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)が修了を認定し、学位を授与するために修得しておくべき学修成果(身に付けるべき資質・能力)の目標を、学府・専攻(博士の学位を授与する教育課程プログラム)および博士の学位(工学、学術)ごとに定める。

都市イノベーション学府では、建築学・土木工学という都市のハードに関わる分野と人文・社会科学、国際社会や文化・芸術などソフトに関わる分野の双方で、実務に長けた高度専門家の育成を行う。

以下の4つの実践的知を身につけた人材に対して、博士(工学、学術)を授与する。

専門知識・学識

世界の都市・地域をめぐる諸問題について、技術的・社会的・文化的・歴史的な分野に関する高度な専門知識。都市のイノベーションというテーマに対して多様なアプローチを実行できる学識

思考力

グローバル社会のなかで柔軟な発想を持ち、自らが主体的に考える思考力。空間、社会基盤、文化基盤などのハードウェアを実践的に設計・構築することのできる能力

コミュニケーション力

諸都市諸地域の学問・文化・芸術・社会活動などソフト面を持続的・実践的に主導できるコミュニケーション力。都市の現実から課題を抽出し、その創造的で有効な解を発見するために、協働して作業を実践できる力

倫理観・責任感

新興国・途上国の都市の問題解決のために実践的かつ創造的に行動できる使命感。多様な問題を包摂した都市の現在に、創造的で持続可能な都市の発展を生み出し社会に貢献するマインド

[都市イノベーション専攻 (学修成果の目標)]

[博士(工学)]

- 科学的根拠や理論に基づいて、創造的で豊かな建築や都市環境・まちづくりを構想し、力強く実践することができる高度な能力
- 歴史的な建築や都市の知恵を理解し、災害や環境リスク、社会のニーズの変化などを的確に捉えて、柔軟に建築や都市のデザインやマネジメントに対応できる高度な能力
- 土木技術が社会や自然に対して極めて大きな影響を及ぼすことへの理解力を深め、技術者としての責任を自覚するとともに、地球的観点に立って自然環境と調和のとれた共生を実践できる高度な能力
- 構造工学系、水工学系、地盤工学系、土木計画学系、土木材料学系の応用学理を理解できる高度な能力
- 土木技術者として所属する国内外の各組織において、自己および相手の取るべき行動を的確に判断し、他者と協働するとともにリーダーシップを実践的かつ応用的にとれる高度な資質

[博士(学術)]

- 芸術文化・都市文化の領域で理論的アイデアを起動させる高度な能力
- 芸術文化・都市文化をめぐる環境変化に理論的に対応できる高度な能力
- 芸術文化・都市文化の領域以外からの問いにも対応できる高度な能力
- 人文社会科学諸分野の様々な知見を、理論のみならず実践的に発展させ、応用することができる高度な能力
- 地域社会の発展を多角的に分析し、多様性や流動性によって特徴づけられる都市問題の解決に実践的に対応できる高度な能力
- 諸地域の文化や社会活動など、ソフト面を持続的かつ実践的に主導し、多様な人々のニーズに寄り添い、多様な問題を包含した都市の現在に適應できる資質と高度な能力

DP3 都市イノベーション学府都市イノベーション専攻
(博士課程後期)の修了認定・学位授与基準

[修了認定基準]

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)に修業年限3年(又は長期にわたる履修を認められた学生は当該修業期間)以上在学し、学生が認定を受けようとする博士の学位ごとに定める授業科目および単位数を修得し、修了に関わる授業科目のGPA(Grade Point Average)2.0以上を満たし、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文審査及び最終試験に合格した者に修了を認定する。

- 在学期間に関しては、優れた業績を上げた者は1年(又は必要な在学期間)以上在学すれば足りるものとする。

■博士(工学)都市イノベーション専攻が定める授業科目および単位数合計20単位以上を修得するものとする。

〈実践科目〉

- ・6単位以上の修得

〈特論科目〉

- ・6単位以上の修得(ただし、博士(工学)認定用科目から4単位以上を修得することを必須とする。

〈特別研究〉

- ・8単位以上の修得

■博士(学術)都市イノベーション専攻が定める授業科目および単位数合計20単位以上を修得するものとする。

〈実践科目〉

- ・6単位以上の修得

〈特論科目〉

- ・6単位以上の修得(ただし、博士(学術)認定用科目から4単位以上を修得することを必須とする。

〈特別研究〉

- ・8単位以上の修得

[学位論文に係る評価基準]

- 適切な研究課題が選定されていること。
- 適切な研究方法により、論理的かつ独創的な研究が展開されていること。
- 当該分野の学術研究の発展に寄与する十分な水準を備えていること。

[学位授与基準]

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻（博士課程後期）を修了した者に対し、博士（工学）/ Doctor of Engineering, Doctor of Philosophy in Engineering又は博士（学術）/ Doctor of Philosophyの学位を授与する。

Policy2

教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

CP1 都市イノベーション学府都市イノベーション専攻 (博士課程後期)の教育システムとカリキュラム基本構造

[教育課程の編成方針]

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻（博士課程後期）の教育課程は、実践科目、特論科目および特別研究により授業科目を開設するとともに、研究指導の計画を策定し、学府・専攻（博士の学位を授与する教育課程プログラム）で体系的に編成するものとする。

教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。

各授業科目は、選択必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

[博士(工学)]

- 実践科目は、都市イノベーション実践Ⅰ、都市イノベーション実践Ⅱからなり、各自の研究テーマを現実のフィールドにおいて検討・補完・発展させることを目的とした様々な実践的活動に単位を与える。
- 特論科目は、都市に係る最前線の知見を修得し、各自の研究テーマの位置づけを明確にするため、博士課程後期担当教員による特論科目を3科目以上履修する。
- 特別研究は、博士論文指導。

[1年次]

- オリエンテーション、指導教員決定、履修・研究計画の提出、研究計画発表会、授業、特別研究、インターンシップ

[2年次]

- 授業、特別研究等、研究中間発表会

[3年次]

- 所定単位の修得
- 博士論文予備審査会
- 博士論文の提出
- 公聴会・審査会

[研究指導の計画方針]

- 博士研究は、指導教員と綿密な打ち合わせのもとで計画する。
- 在学期間中に国際会議出席や海外インターンシップを強く奨励する。
- 英語による論文作成や情報発信に努める。

CP2 都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)の教育課程プログラムと成績評価基準

[教育課程の実施方針]

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)の教育課程は、学府・専攻(博士の学位を授与する教育課程プログラム)において、国際通用性ある質保証された大学院博士課程後期教育を実現するとともに、教育課程の編成方針に従い、次の取組を実施するものとする。

- 建築・都市計画・芸術文化の領域の高度で先端的な問題を学ぶ。
- 土木工学分野やグローバル・スタディーズ分野における世界的、国際的な視点からの都市問題解決や、地域社会発展のための考え方を学ぶ。
- 社会基盤工学の方法や、地域社会の文化や歴史に関する高度な知識を学ぶ。
- 都市・世界をめぐる重要で難易度の高い高度な課題に取り組む。
- 創造的かつ持続可能な社会ビジョンを意識した課題に対し、座学のみならずフィールドにおいても実践的に取り組む。

[教育方法の特例]

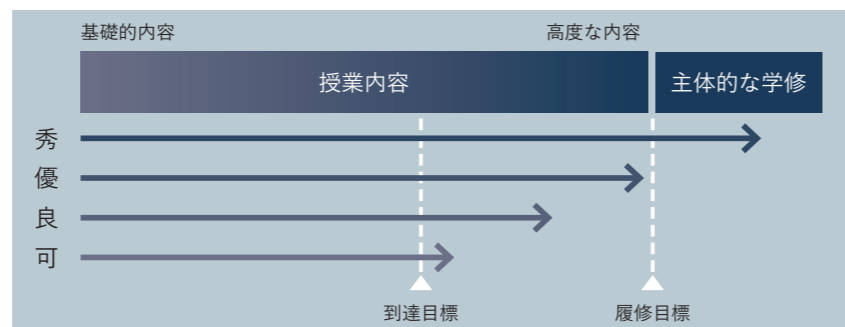
都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)の教育課程において、学生が職業を有している等の事情により教育上特別の配慮が必要な場合は、夜間その他特定の時間又は時期に行う授業又は研究指導など、次による教育方法の特例を実施する。

- 指導教員と調整した日程に登校し、必要な研究指導を受けるものとする。
- 特例による授業は、夜間または夏季・冬季休業期間中等に実施する。

[成績評価基準]

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻（博士課程後期）の成績評価は、「授業設計と成績評価ガイドライン」による全学統一の成績評価基準に基づき、WEBシラバス（Syllabus）に記載した成績評価の方法により総合判定し、成績グレード（評語）を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表し、それぞれの授業科目の成績評価に対してGP（Grade Point）を与えるものとする。ただし、5段階の成績グレード（評語）で表し難い授業科目は「合格・不合格」で表し、GP（Grade Point）を与えないものとする。

評語	成績評価の基準	GP	評価点
秀	履修目標を越えたレベルを達成している	4.5	100-90点
優	履修目標を達成している	4	89-80点
良	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	3	79-70点
可	到達目標を達成している	2	69-60点
不可	到達目標を達成していない	0	59-0点



1 履修目標は、授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標とし、より高度な内容は主体的な学修で身に付けることが必要であり、履修目標を超えると成績評価「秀」となる目標

2 到達目標は、授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標とし、到達目標を達成すると成績評価「可」となる目標であり、さらなる学修を必要とするレベルを示す

CP3 都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)入学から修了までの学修指導の方針

[学修指導の方針]

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻（博士課程後期）の学修指導は、学生の多様なニーズや学習支援の効果等を踏まえて適切に実施するとともに、学府・専攻（博士の学位を授与する教育課程プログラム）において次の取組を実施するものとする。

[博士(工学)]

博士（工学）の認定を受ける場合、博士（工学）の特論科目から4単位以上修得することを必要とする。（工学系研究室に所属し、博士（学術）の学位を取得する場合もこれに倣う）

[1年次]

■オリエンテーション、指導教員決定、履修・研究計画の提出、研究計画発表会、授業、特別研究、インターンシップ

[2年次]

■授業、特別研究等、研究中間発表会

[3年次]

- 所定単位の修得
- 博士論文予備審査会
- 博士論文の提出
- 公聴会・審査会

[研究指導]

研究指導については、指導教官による綿密な指導・助言のもとで、研究課題の設定や、独創的な研究を展開する方法が指導される。その過程を通じて、研究課題の設定方法、研究を推進させる方法、論文作成等とりまとめ方法に至る一連の研究手法を身につけ、独立した研究者を育成する。

[博士(学術)]

博士(学術)の認定を受ける場合、博士(学術)の特論科目から4単位以上修得することを必須とする。

[1年次]

■オリエンテーション、指導教員決定、履修・研究計画の提出、研究計画発表会、授業、特別研究、インターンシップ

[2年次]

■授業、特別研究等、研究中間発表会

[3年次]

- 所定単位の修得
- 博士論文予備審査会
- 博士論文の提出
- 公聴会・審査会

[研究指導]

研究指導については、指導教官による綿密な指導・助言のもとで、研究課題の設定や、独創的な研究を展開する方法が指導される。その過程を通じて、研究課題の設定方法、研究を推進させる方法、論文作成等とりまとめ方法に至る一連の研究手法を身につけ、独立した研究者を育成する。

[長期にわたる課程の履修]

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)の教育課程において、学生が職業を有している等の事情により修業年限3年を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができるものとする。

Policy3

入学者受入れの方針

(アドミッション・ポリシー)

AP1 都市イノベーション学府都市イノベーション専攻 (博士課程後期)が求める学生像

社会課題を多面的に理解し、建築学・土木学・社会科学、国際社会や文化・芸術分野などの諸分野と連携できる文理融合型の高度な人材の育成を目指す。

[都市イノベーション学府が求める学生像]

- 都市に関わる多様なイノベーションを目指そうとする人
- グローバルな視点と高度な思考力を備えた人
- 本学府の掲げる以下の理念に対して強い関心のある人
 - ・人間と自然に優しく美しい都市空間に係るイノベーション 感性を高める都市の価値づくり。
 - ・科学的評価と諸資源のマネジメント手法に係るイノベーション 人々の共感による都市づくり
 - ・歴史的・文化的・社会的な固有性の共生に係るイノベーション 共生と連帯によるグローバルな環境づくり

[都市イノベーション専攻(博士課程後期)が求める学生像]

- 建築学・都市計画・都市基盤などの自然科学・工学系の知識と、芸術文化・社会文化の多様な展開に関する知識を有し、より高いレベルでのグローバルな都市イノベーションに係り、指導的役割を果たそうと志望する人

AP2 都市イノベーション学府都市イノベーション専攻 (博士課程後期)が入学者に求める知識や能力・水準

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)が入学者に求める知識や能力・水準は、次のとおりとする

[都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)]

[博士(工学)]

- 本学の建築都市文化専攻、もしくは都市地域社会専攻博士課程前期における各専門分野の知識やこれらの修了生と同等かそれ以上の能力・水準を有すること

[博士(学術)]

- 本学の建築都市文化専攻、もしくは都市地域社会専攻博士課程前期における各専門分野の知識やこれらの修了生と同等かそれ以上の能力・水準を有すること

AP3 都市イノベーション学府都市イノベーション専攻 (博士課程後期)の入学者選抜の基本方針

都市イノベーション学府都市イノベーション専攻(博士課程後期)の入学者選抜は、入学者に求める必要な知識や能力・水準を確認するため、学府・専攻およびコース(修士の学位を授与する教育課程プログラム)ごとに学力検査や面接試験などを活用して多面的・総合的な入学者選抜を実施する。

[入学者選抜の実施方法]

- 入学者選抜は一般入試、私費外国人留学生特別入試、社会人対象特別選抜入試により実施する。一般入試、私費外国人留学生特別入試は、特別選抜(後期推薦進学)と筆記試験選抜のいずれかにより行う。筆記試験選抜では、外国語、学科試験、口述試験により選抜を行う。
 - ・ 研究分野に関する総合的な学力および専門知識を調べるため、学科試験を課す。
研究に向けた発展性のある柔軟な専門性と研究構想を有していることを調べるため口述試験を課す。
 - ・ 外国語(英語)の能力を調べるため、外部英語試験(TOEIC、TOEFL、IELTS)を課し、基礎的知識や技能を確認する。
- 本学府博士課程前期から推薦された者に対して特別選抜(後期推薦進学)を実施する。出願書類をもとに審査を行い、受験資格を認定された者に対して、外国語の能力を調べるため及び、研究分野に関する総合的な学力および専門知識を調べるため、外国語、専門科目等に関する口述試験を行う。
- 社会人を対象として特別選抜入試を実施する。出願資格を有すると認められた者に対し、研究分野に関する総合的な学力および専門知識を調べるため、出願書類の審査及び修士論文又はそれに代わる成果物ならびに研究計画書に対する口述試験を行う。